

一般社団法人日本医真菌学会
2021年度（2021年9月～2022年8月）第1回理事会議事録

日時：2021年10月28日（木）14：30～16：30

場所：第一ホテル東京 4F フローラ

〒105-8621 東京都港区新橋1丁目2番6号 TEL 03-3501-4411

現地出席：

澁谷和俊（理事長）

泉川公一、神田善伸、杉田 隆、原田和俊、槇村浩一、宮崎義継 以上理事7名

小川祐美、村山琮明 以上監事2名

三鴨廣繁、山岸由佳、若山 恵 以上幹事3名

Web出席：大野尚仁、亀井克彦、福田知雄、望月 隆（以上理事4名）掛屋 弘（幹事）

欠席：金子健彦（幹事）

議題：

1. 前回理事会議事録確認（宮崎総務理事）

前回理事会議事録の確認を行った。

2. メール審議結果確認（澁谷理事長）

第7回～9回のメール審議の結果を確認した。

3. 2021年度（2020年9月～2021年8月）事業報告（宮崎総務理事）

理事会を4回、代議員総会1回、会員総会を1回、第64回総会学術集会を澁谷会長の下、京王プラザホテル（東京）で開催した。Medical Mycology Journal 61巻4号～62巻3号を発刊した。2021年8月に侵襲性カンジダ症に対するマネジメントのための臨床実践ガイドラインを発刊した。

4. 会員異動報告（宮崎総務理事）

2021年9月30日時点の会員数の報告があった。合計で947名となり、微減の傾向が続いている。

5. 各種委員会報告・議事

1) 編集委員会（宮崎理事）

①投稿論文数

2020年9月～2021年8月の投稿論文数は22編であり、前年度に比べ3編減少した。

②優秀論文賞

長谷川奈海先生に受賞することが前回理事会で承認されており、総会で報告することになっている。

③第64回学術集会におけるシンポジウムの演者（会員）への執筆依頼

6名へ執筆依頼し、4名から承諾を得ている。

④広告掲載

61 巻 4 号～62 巻 3 号に掲載した広告企業について報告があった。

⑤インパクトファクター

2021 年 6 月 30 日にクラリベイト・アナリティクス社より“Journal of Citation Index” (JCR) 2021 年版のリリースが発表された。事務局には連絡がなかったことから、まだインパクトファクター (IF) は獲得できていない。しかしながら、今回より JCR 収録の範囲拡大が図られ、現在 MMJ が収録されている“Emerging Sources Citation Index” (ESCI) も含まれるようになったことから、今後、MMJ に投稿する際に過去 (2 年間) の MMJ 掲載論文を引用することで MMJ の引用率を上げることが可能になった。掲載論文の一覧を会員に提示し、引用を呼びかけることとした。

2) 用語委員会 (大野理事)

① 医真菌関連 ICD-11 和訳候補用語 (Foundation 版) の確認について

Foundation 版について、12 月初旬の締め切りに向け、検討を続けている。

② *C. auris* の和名の検討

C. auris の和名について、「カンジダ・アウリス」として、用語集に掲載することとした。

③ *Cladophialophora bantiana* の学会 HP 用語集への追加記載について

感染症法上も重要な菌であることから、追加記載について審議継続中である。

④ 用語解説の掲載

シリーズ 用語解説 (No.32) を *Medical Mycology Journal* に掲載 (アルファフォルド、接合菌類、COVID-19 関連肺アスペルギルス症) した。また、これまで作成した用語解説を、学会 HP に転載した。今後も継続予定である。

3) 将来計画委員会 (神田理事)

医真菌学会の学術集会、講習会などが幅広く他学会、他団体の認定単位となる ように、今回の総会での認定方法等を踏まえて引き続き検討を行うこととした。

4) ガイドライン検討委員会 (泉川理事)

① 侵襲性カンジダ症に対するマネジメントのための臨床実践ガイドライン作成委員会

8 月末に発刊された。

② 希少真菌症診断治療のガイドライン (仮称) 作成委員会

執筆の分担、発刊までのロードマップが提示され、説明があった。2022 年 8 月に発刊予定で進めている。

5) 支部会・関連学会委員会 (泉川理事)

開催状況と今後の開催予定について説明があった。

6) 疫学調査委員会 (福田理事)

2021 年が調査期間となっており、現在データを集積中である。調査後に結果をまとめて学会誌へレポートを掲載する予定である。

7) 教育委員会 (杉田理事)

広報委員会と共同で第9回皮膚真菌症指導者講習会の動画コンテンツと確認テストの作成を行い、作業が終わった。暫定的に学会ホームページのテストサイトにアップした。受講料をとるか、確認テストをどのように運用するかなど詳細は今後の検討課題とし、今年度内に稼働させることとした。

8) 広報委員会 (楨村理事)

ウェブサイトレポートについて報告があった。アクセス数と真菌研究の活動性に乖離があり、違和感がある。今後も注視していく必要がある。

9) 専門医・認定師委員会 (原田理事)

前回理事会で提案のあった専門医研修施設および業績に関する、専門医規則の改定案が提示された。専門医研修施設には専門医が何らかの形で携わったほうが良いという意見があり、条文を再度検討して後日メール審議で決議することとした。

10) 規約検討委員会 (澁谷理事長)

報告事項なし。

11) 倫理委員会 (原田理事)

報告事項なし。

12) 利益相反委員会 (亀井理事)

日本医学会より ICMJE を大幅に取り入れる形で COI 規定を変更する案が提示されていることが報告された。

13) バイオセーフティー委員会 (村山監事)

後述する。

6. 第65回総会報告 (宮崎理事)

開催にあたり挨拶が述べられた。

7. 第66~68回総会報告 (各会長)

1) 第66回総会報告 (三嶋幹事)

開催概要について報告があった。鋭意準備を進めている。

会期：2022年10月1日(土)~10月2日(日)

会場：長良川国際会議場

2) 第67回総会報告 (福田理事)

これから開催準備を進める予定である。

3) 第68回総会報告 (杉田理事)

APSMM と合同開催を予定している。

会期：2024年11月6日(水)~9日(土)(予定)

会場：国立京都国際会館

8. 関連国際学会・会議に関する報告 (杉田理事)

第1回 ISHAM Asia Congress 2021年8月6日~8日開催される。第21回 ISHAM は2022年9月20日~24日へ会期が延期され、開催予定となった。

9. ICD 制度協議会報告（金子幹事：欠席）

報告事項なし。

10. 内保連報告（山岸幹事）

報告事項なし。

11. 医学会・医学会連合に関する報告（宮崎理事・小川監事）

小川監事より報告があった。12月5日開催の令和3年度女性医師支援担当者連絡会に出席する予定である。

12. 日本微生物学連名に関する報告（杉田理事）

日本微生物学連盟理事会、日本学術会議総合微生物科学分科会・IUMS 分科会・病原体学分科会の合同会議に関する報告があった。

13. その他

澁谷理事長より年度調整について説明があった。前期までは会計年度初月の西暦年ではなく、翌年の西暦年を使用していた。本年度より会計年度初月の西暦年を年度の呼称に用いることとした。すなわち今期（2021年9月～2022年8月）は2021年度とする。年会費の請求書には「2021年度（2021年9月～2022年8月）会費」と印字し、二重請求ではないことを明記した上で発行をした。

審議

14. 2021年度（2021/9～2022/8）事業計画案について（宮崎総務理事）

理事会を3回、代議員総会を1回、会員総会を1回、第65回総会学術集会を宮崎会長の下、第一ホテル東京にて開催する。Medical Mycology Journal 62巻4号～63巻3号を発刊する。希少深在性真菌症の診断・治療ガイドライン（仮称）の発刊、皮膚真菌症指導者講習会を開催する。以上の事業計画は異議なく承認された。

15. 2021年度（2020/9～2021/8）決算および2021年度（2021/9～2022/8）予算案について（望月財務理事）

1) 決算報告

会費収入が減少傾向にあり予算を下回った。ガイドライン販売収入は、侵襲性カンジダ症に対するマネジメントのための臨床実践ガイドラインの発刊が年度末となったため、次年度に持ち越しとなり予算と決算が大幅に乖離しているが、同様にガイドライン印刷費も次年度持ち越しとなるため、決算に影響は無かった。支出は旅費、地方会補助金、事務費などがコロナの影響で予算を下回った。収支差額は約170万円の黒字となった。続いて、小川監事より監査報告があり、決算は承認された。

2) 予算案

概ね前年予算としたが、会員減少を受けて、会費収入を前年予算より減額した。また、侵襲性カンジダ症に対するマネジメントのための臨床実践ガイドラインの販売収入および印刷経費は今期に計上した。学術集会の補助金120万円および前回理事会で審議したWebコンテンツの経費

100万円は、学術集會経費に一括で計上されているが、分かり難いとの指摘があり、今後は別に科目建てをすとして、本予算案は承認された。

16. 厚生労働大臣への要望書について（澁谷理事長）

リポソーマルアムホテリシンB製剤の安定供給継続に関する要望書について、内容に異論はなく承認された。

17. 顕彰制度の改変について（澁谷理事長）

第9回メール審議で審議し、理事から寄せられた意見を反映した制度案をメール理事会およびメール代議員会にて審議することが承認された。

18. 若手対象のワークショップ開催の件（澁谷理事長）

若手および女性会員増を目的に、第66回総会にて若手対象のワークショップの開催を三鴨幹事に依頼し、承諾を得た。オーガナイザーは40代半ばを目安とし、演者は30代を目安とする。第65回総会学術集會後に、各理事から相応しい若手がいれば三鴨幹事に推薦することとした。

19. 名誉会員推薦の件（澁谷理事長）

新見昌一先生が名誉会員に推薦され、承認された。

20. その他

特になし。

21. 報告事項での審議事項

1) 教育委員会

第95回日本細菌学会総会でのシンポジウム（共催）について審議し、承認された。

2) バイオセーフティー委員会

第8回メール審議で審議した、バイオセーフティーレベルの件は、杉田理事を中心に最終案をまとめていただき、パブリックコメントを実施することを理事会の方針とすることを承認した。

以上

2021年11月10日

議事録作成人 澁谷和俊

議事録署名人 小川祐美

議事録署名人 村山琮明